

この風景に「水の番人」が  
写っていることに誰も気づかない、  
というその価値。

英国ウェールズ地方、パーマス  
その街沿いに、石造りの小さな建物が  
寄り添い連なる。ウェールズの西の  
端での街。「英国デジタルトラスト  
運動」発祥の町であり、景観の意識  
が高い。そのパーマス住民の水環境  
を「気づかれることなく、守り続け  
ている」のは、クボタの「排水膜」を利用  
した下水処理施設である。

「過去から連続と続く風景を守り  
たい」住居意識。ささやかなまでに  
小さな「排水膜」それらに配慮し  
ながら、大邸宅と通らない「下水処理  
はできないものなのか」

クボタは、そんな「高い壁」に、真つ向  
挑戦しています。  
下水の昔の大腸菌までも除去する  
「高い」膜分離性能。丈夫な付帯  
設備や後処理を必要としない。優れた  
コンパクト性、メンテナンスが容易  
ながらも十年規模で機能維持できる  
「確実な信頼性」や、クボタの  
「排水膜」を利用した下水処理施設は、  
環境意識の高い英国において初めて  
導入され、膜分離と生物処理を組み  
合わせた下水処理施設での「トピアシア」  
を、今日に至るまで維持することと  
なっています。

丘に吹き込む、涼かアイルランドから  
流れてくる海風の中、老夫婦の、穏  
やかでいつも通りの生活が暮れそうと  
している彼らは、気づかない。この  
風景に「生まれた施設の中の「排水膜」  
こそが、自分たちの水の安全を守り  
続けていること。まるで「水の番人」  
のように「気づかれぬほど」に、その  
風景に「よけ込みながら」。

壁がある。  
だから、行く。